

第6回豊岡市地域コミュニティビジョン策定検討委員会会議録（要旨）

日時：令和元年7月16日（火）

場所：市役所本庁舎3階庁議室

出席委員：作野委員長・木村副委員長・井原委員・今西委員・小熊委員・森本委員

欠席委員：上田委員・西村委員

1 開会

2 協議

委員長 本ビジョンは当初は16頁程度を想定していましたが、現在はそれを大きく上回る頁数となっています。本日の議論の中心となるのは、5章の学校教育、行政区に関するところであり、しっかり審議したいと考えています。本日、本委員会前に市長と面会を行い、ビジョンの策定状況の報告や課題について意見交換を行いました。また、中間支援組織についてもまだ実態は検討中ですが、島根大学との共同研究の成果も踏まえ、良いものにしていきたいと考えています。委員会は、本日と次回の2回のみです。

それでは「(1) 素案に対する意見等について」として、事務局より説明をお願いします。

(1) 素案に対する意見等について

事務局 《事務局より委員会終了後の意見集約シートからの意見を説明》

委員長 補足すると、7番の委員Cからのご意見はごもっともで私もそうあるべきだと思います。共同研究でも言っていますが行政区レベルの問題をどうにかしないとコミュニティも良くならないという認識です。ビジョンの段階の整理としては、この「考え方」に示しているようなものになります。質問、ご意見はありますか。

（委員からの意見、質問なし）

委員長 それでは、前回委員会内で委員の方から頂いた意見について、その対応について事務局より説明をお願いします。

事務局 《事務局より前回委員会内での意見を説明》

委員長 前回委員会内で委員から頂いた意見に対して、先ほど説明いただいた内容で意見、

質問はありますか。

(委員からの意見・質問なし)

委員長 それでは、続いて第5章について説明をお願いします。
事務局 ≪事務局より教育委員会からの意見を説明≫

(2) 第5章 おわりに

(事務局より第5章について説明、意見集約シートからの意見5・6番について説明)

委員長 ここでは、地域コミュニティと学校教育について集中的に議論していきたいと思っています。みなさんからご意見・ご質問等いかがでしょうか。

委員B 本日配布のP.65の文面だと本来の趣旨は伝わると思います。送ってもらった素案では「学校が…」と書かれており、地域にとっては荷が重いということで意見を書きました。新しい文章の方が正確に伝わると思います。

委員C 1番大事なことは、学校再編成は子どもの教育の質に関わるということであり、コミュニティとは違う観点の話だと考えます。地域コミュニティビジョンでは地域の核となる学校についての記述に留めて、再編成については他の委員会を設けるなどして考えていった方がいいと思います。私に関わった他市町の例として、同じ町であっても学校単位で事情は全く異なるものであり、一律に言えるものではありません。この資料2で示されている内容は少しボヤっとした内容であり、よくわからないものではありません。しかし、もし再編するとしたら、コミュニティの人たちとよく相談をしたうえで行うものという程度なので、大きく反対を唱えるという立場の意見ではありませんが。

委員長 確認としてコミュニティビジョンでどこまで書くというかの話であり、この委員会で学校のあり方を検討することは考えていませんし、市長部局と教育委員会部局と異なる部局の内容であります。そこで委員Bのご意見は子どもの教育は学校施設のみで行われている訳ではないということ。地域の子どもの地域で育てる時に、場としての学校そのものというのはいろいろな配置のあり方があるというご意見であり、そういう意見を踏まえたうえで原案のようになったと考えています。

委員D いただいた素案の段階では、「機運が高まっていない」という書きぶりになっているが、事実そのように考えている人もいれば、真剣に考えている人もいます。だから、「議論する場がなかった…」という今の書きぶりは、住民と行政が一緒にやっていくという感じが出て良いと思います。

委員E 学校教育とコミュニティの役割が違うという点については賛成なのですが、資

料 2 を読んでいてコミュニティの役割は、文中にもあるが「自分のふるさとに愛着を持つこと」だと思います。地域コミュニティや学校教育でも、このあたりもう少し言葉の表現を考えていただけたらと思います。

委員長 この点については、第 3 章②「地区で子どもを育てる体制ができている」の部分で順位高く触れています。学校とのかかわりはこの部分では触れにくいとは思いますが、残された課題で整理するのであれば、委員 E が言われた論点はやらないといけませんが、これまで十分にできなかったとも言えるので、この点については再検討させていただきたいと思います。

委員 A 残された課題なのだから連携の重要性や地域でしっかり子どもを育てることだったのではないかと思います。残された課題が何なのかよくわからないと思います。それと「コミュニティと学校は子どもたちの夢を実現していく当事者として・・・」は荷が重いのではないのでしょうか。

事務局 これは教育委員会が修正した部分であり、「とよおか教育プラン」をもとに記述してもらったため、このような書き方になったと思われます。

委員長 委員 A はそれが重たいのではないかという意見ですね。

委員 A ふるさと教育のこともコミュニティ側は何も知らされていない、それを何とかしたいということなのではないかと思いますが、あまり求められても大変ではありますが。

委員長 今の点をもう少し議論しますと、ふるさと教育のパートナーとして地域コミュニティ組織が想定されること自体はおかしいことではないと思います。これまで地域コミュニティにおいて、そういう関係性があったのかどうか、ないのであればつくっていくべきなのか。そのようなさじ加減があれば事務局から紹介していただければ教えていただきたいと思います。

事務局 そのあたりの話は教育委員会と詰められていないのが現状であります。公式見解ではありませんが、教育委員会はコミュニティスクールを考えていて、ふるさと教育で地域との繋がりを考えての意見かと思いますが、現時点ではその確認はとれていません。

委員 C 資料 2 の文章で、「子どもたちの夢を実現していく当事者として、責任と役割を果たし…」という、ここまで踏み込んだ見解を出されたことに敬意を表したいと思います。コミュニティスクールが意識されていてすごいと思うが、これまでこういう意見は出てこなかったもので、多少違和感があります。というのは、兵庫県はコミュニティスクールについては全国的に見ても遅れています。その問題は表に出てこざるを得ないので、子どもの教育に対して地域コミュニティと学校に当事者責任があるのだということであれば、ふるさと教育とはまた意味が違くと私は感じました。

委員長 ここで気づいた点を申し上げると、本文中の図表 5-2 の「小学校区就学前児童数」と次頁の図表のタイトルが違うので、どちらかに統一してください。また、ふるさと教育かぎにかっこついているものについていないものがあるので修正をし

てください。

委員長

今回書き方など教育委員会と協議をし、同意できる場所もあれば、思いあぐねる部分もあって、現時点ではこのような記述になっています。ある意味踏み込んで書いている部分はある。地域に絶対に学校がないといけないということではなく、教育の主体は地域にもあって、コミュニティや学校が連携していくということが書かれています。ビジョンはビジョンとして、実際にどう運用されるかはわかりませんが、これが今後パブリックコメントを経て、市の施策としてこれを行っていくということとなるので、コミュニティ側からみると非常に大事なことが書かれているということになります。このような書き方でよいのかどうか、この会議終了後に委員の皆様には照会があると思うので、どうぞよろしくお願いします。

委員A

先ほどのコミュニティスクールの話について、ここではあまり出てきていません。コミュニティスクールを学校がすすめるのは分かりますが、連携するのは地域コミュニティですか？ どのようなかたちになるのかイメージは？

事務局

コミュニティスクールについては、来年度モデル的に何校かやるということは聞いていますが、現時点では具体的なことはまだ決まっていないという見解です。

委員長

想像がつかないというのが課題なのでしょうが、このビジョンは今後10年を見据えてやっていくという想定で、現時点でどこまで各課ということが難しいので、この原案が整理されたということでもあります。現時点で決定できるものではありませんが、ここで「あとがき」について事務局から説明していただきたいと思っています。

事務局

《事務局よりあとがきについて説明》

委員長

あとがきを含め全体を通して、課題となるような点がありましたら、ご発言をよろしくお願いします。

委員C

あとがきの文章の中に「棚卸し」という言葉が出てきますが、こういう文章の中ではあまり見たことはありません。違和感あり、別の表現にした方がいいのではないのでしょうか。それと、P.71 インクルーシブ教育ですが、インクルーシブ＝包摂されたという意味です。これは1994年スペインのサラエボ会議で出てきた言葉です。それと同時に、障がい者問題を通して、ソーシャルインクルージョンという言葉があって、それが前提となって生まれた言葉でもあります。ここに書いてある文章を見ると、特別支援を必要とする子どもにという説明になってしまっていますが、本来はもっと広い概念であり、外国人、貧困の子なども含めたものであります。ちょっと引っかけるところだと思います。

事務局

「棚卸し」という言葉についてですが、公民館から地域コミュニティになり、これまでやってきたことの上に新しいことを重ねていった結果疲弊している現状もあります。その状況の表現として、直近で解決しなければいけない課題という思いで「棚卸し」という整理する意味合いで使用しております。インクルーシブ教育の説

明についても、内容を再確認し検討させていただきたいと考えています。

委員長 インクルーシブ教育の意味としては、本ビジョンの議論を踏まえた狭義の意味での使用ということも考えられますし、検討していただくということでもよろしいでしょうか。

委員E 全体を通しての意見ですが、「問題」と「課題」2つ並べているが、私自身「問題」は早く解決しないといけないものと考えてしまいます。そういう見解だと、「～挙げられます」「～求められます」など、あいまいな文の締め方も気になってしまいます。

委員長 「問題」は解決すべき対象であってなくても挙げられるもの、「課題」はそのうち解決すべきものだと考えます。ここではコミュニティビジョンなので、地域コミュニティにおいて解決すべき課題が「挙げられる」というのは、選択できる要素を持っている、絶対に解決すべきと言い切るのではない要素を持っているものだと私自身考えています。

事務局 委員長の言われたように、このビジョンは市がめざす方向ですが、実践するのは地区ですので、地区に考えていただくような構成にしています。課題は挙げられるが、あくまで強制でなく、地域によって選択していけるような意味があります。

委員D P. 70 下から 5 行目、「手付かずだった行政区のあり方…」という表現に違和感があります。もっと違う表現でもよいのではないのでしょうか。

事務局 気持ちが入りすぎている部分もあると思います。残された課題として地域コミュニティと行政区の課題があり、共同研究の中でも行政区の課題が解決しないと地域コミュニティの問題も解決しないという見方も出ています。「手付かずだった」という表現がいいかどうかは検討します。

委員長 事実として、これまで手付かずだったのではないかと思います。あとがきで表現するかどうかは検討していただきたいと思います。コミュニティのビジョンとして、行政区の問題を扱うかは大きな課題ではあります。

委員B ビジョンの中では、この程度かなと思います。あとがきの書きぶりですが、一般的に巻頭には市長の挨拶が入ったりするのですが、これには入るのでしょうか。これを見ると、課題をつらつらと述べているだけののように思います。みんなで頑張ろうでいいのではないのでしょうか。巻頭は市長の言葉が入ったりするのであれば、それとの関係性を考えて書けるかどうかだと思います。

事務局 体裁については検討します。

委員長 特にあとがきの最後の段落のところを検討していただくということにしたいと思います。

委員A 一応最後のところに書いてはあるのですが、行政がどうするのかというのがもう少し必要なのではないのでしょうか。

委員長 コミュニティビジョンなので、そこは踏み込めないとは思いますが。私の見解として、地域コミュニティビジョンからみて、行政区との向き合い方としてここではまとめています。行政側が変わる要素は必要ですが、それはコミュニティビジョン

を実現するために、協働で変わっていくということは書いてあったと思いますので、そちらの方でまとめてあるという考え方になると思います。

委員長 それでは、まだ次回最後の委員会がありますので、全体を通して、体裁について等ご意見いただきたいと思います。より良いコミュニティビジョンをつくるために、もう少しご意見をお願いします。

3 報告

(1) 豊岡市地域コミュニティビジョン地域説明会・職員説明会の実施について

事務局 ≪事務局より地域コミュニティビジョン地域説明会・職員説明会について説明≫
委員長 説明会の手法について、実施方法について検討の余地があると思いますので、ご意見がありましたら、どうぞよろしくお願いします。

委員E 説明会の順序についてですが、職員説明会の方が後にあるのはなぜでしょうか。本来だと地域の住民から職員が聞かれたら、答えられるようにしておかないといけないと思います。それと広報で周知するとありますが、広報の紙面の1頁だと興味のない人はなかなか見ないと思います。1枚もののチラシとして配布されないのですか。

事務局 今回の地域説明会は、住民の方ができるだけ参加しやすい日程で調整しました。チラシは区長会から少なくしてほしいとの要望がありますので、紙面の中に掲載しました。また、秘書広報課が行ったアンケート調査でも、最も情報の入手をする媒体として、ホームページやチラシなど様々な中で一番多かったのが市広報紙という結果も出ていましたので、それを採用することとしました。

委員E 豊岡市の将来がかかっている大事なことなので、チラシ1枚をどうこう言うのはどうかと思います。

委員長 広報の仕方については、検討していくということにしましょう。
私が話す内容として、「地域コミュニティの必要性」というより、地域の課題や可能性ということを住民があまり考える機会がなく、このことは地域の課題に直結しているのだということを認識してもらうような話にしたいと考えています。そうしないと、区長さん方は地域コミュニティのことを関係ないと考えている方も多かったり、別物だと思っている方もおられるので、そのあたりを変えていきたいと考えています。

(2) 共同研究調査の報告（作野委員長）

委員E モデル地区希望すれば人口ピラミッドなどのデータ提供してもらえるのでしょうか。手順については、区長を通じて依頼する必要がありますか。

事務局 データの提供については個別対応できます。手順については相談させていただきます。

委員長 統計については、もともと秘密にしている情報ではなく、事実でもあります。市として、それをグラフ等見やすいものになっている作業は行われていますが。行政が出す場合には、窓口を一本化した方がいいと思いますし、行政区などで話し合いをする資料とすると、実態がわかっていいと思います。

 共同研究については、市からお金を頂いて行っている事業ですので、市民の方から意見等がありましたら、対応させていただきます。

4 その他

(委員・事務局から特になし)

5 次回委員会日程

6 閉会